令和8年度「進路対策研究会」進路調査結果 【抜粋版（更新）】

横浜市内在住の、①特別支援学校、支援学校に在籍する児童生徒、②サポート校、インクルーシブ校等に在籍する福祉的支援が必要と思われる生徒を対象にした進路に関する調査。

1．特別支援学校等高等部卒業生推移・予測数　　参照：資料1－1　P4

卒業年度	1982(S57)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8) 現高3	2027(R9) 現高２	2028(R10) 現高１	2029(R11) 現中3	2030(R12) 現中２	2031(R13) 現中1	2032(R14) 現小6	2033(R15) 現小5	2034(R16) 現小4	2035(R17) 現小3	2036(R18) 現小2	2037(R19) 現小1
卒業生（人）	123	723	778	819	778	762	756	731	794	1227	1216	1336	2006	2234	2223	2393	2361	2207

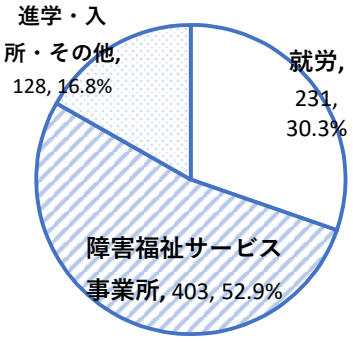
＊中学生以下は、個別支援級含む。ただし、令和7年5月1日の統計数字。

・特別支援教育が必要な児童・生徒は増加傾向で、2032 年以降の予測人数は 2000 名を超えている。通所先選びが困難になることが予想される。今後どのように対応していくのか検討していくことが課題になる。

・現高 1 の予測数が昨年度から減少している理由として、フリースクールやサポート校、インクルーシブ教育実践推進校、通信制高校といった多様な進学先を選択できることが考えられる。

2．令和7年度卒業生の進路結果　　参照：資料1－1　P6

＜令和7年度進路先内訳＞



＜進路先別推移＞

	R元年度卒	R2年度卒	R3年度卒	R4年度卒	R5年度卒	R6年度卒	R7年度卒
就労	32.7%	30.1%	29.3%	28.5%	27.0%	29.7%	30.3%
進学・職業訓練	6.8%	8.0%	7.9%	11.7%	13.6%	8.1%	10.4%
入所施設	1.2%	0.7%	0.6%	0.4%	1.1%	0.8%	0.4%
重度通所 ＊1	1.6%	1.4%	1.9%	2.3%	1.4%	1.4%	2.0%
生活介護	17.3%	19.1%	18.0%	17.5%	14.3%	18.9%	16.7%
自立訓練 ＊2	2.1%	3.0%	2.8%	3.6%	2.8%	4.0%	3.4%
就労移行	9.0%	8.1%	9.7%	8.4%	9.1%	7.1%	5.1%
就A・就B	16.1%	19.6%	17.4%	18.3%	19.7%	20.4%	19.4%
作業所型	3.5%	2.6%	3.6%	2.2%	2.4%	1.4%	2.8%
活H	4.7%	3.5%	4.8%	3.2%	5.3%	4.6%	3.6%
その他　＊3	5.0%	3.9%	4.0%	3.9%	3.3%	3.6%	6.0%

＊1：重度通所：重度重複通所、＊2：自立訓練：機能訓練・生活訓練　＊3：その他：在宅等

・内訳に大きな変化は見られないが、就労移行支援事業所への進路は若干減少傾向にある。コロナ禍だった令和元年から数年間は見学や実習の機会が十分確保出来ず、企業就労か就労継続支援か決められなかった層で一時的に就労移行支援事業所の利用が増えたと思われ、その時期から脱してきていることが考えられる。

・自立訓練（生活訓練）は、近年不登校の生徒も受け入れる事業所が増えている。就労移行等もある多機能型事業所もあり、進路先を選択する上で保護者の安心感に繋がっていることも考えられる。

・「その他」が若干増加している。内訳として、在宅、通所先決定時期が 4 月でなく待機中または実習中であった例、退学のため算入項目がなかった事例、などがある。

＜高校 1～3 年生時点進路希望との比較＞

	就労	進学・職業訓練	入所施設	障害福祉サービス事業所内訳									その他 ※3
				重度通所 ＊1	生活介護	自立訓練 ＊2	就労移行	就労A	就労B	作業所型	機能強活H	法人活H	
高1時点の希望	38.8%	8.9%	0.3%	1.2%	15.0%	1.6%	5.7%	0.8%	23.1%	1.0%	0.4%	1.4%	1.8%
高2時点の希望	37.3%	6.5%	0.7%	1.2%	14.9%	3.6%	4.9%	1.5%	17.0%	1.2%	0.3%	1.0%	9.8%
高3時点の希望	34.6%	10.7%	0.4%	2.0%	13.6%	3.4%	4.9%	0.9%	16.5%	2.0%	1.1%	3.8%	5.8%
進路結果	30.3%	10.4%	0.4%	2.0%	16.7%	3.4%	5.1%	0.1%	19.3%	2.8%	1.2%	2.4%	6.0%

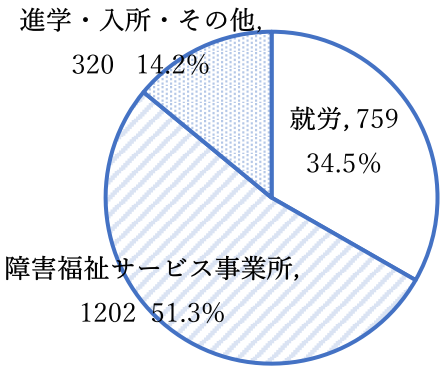
＊1：重度通所：重度重複通所、＊2：自立訓練：機能訓練・生活訓練　＊3：その他：在宅等

＊高 1～3 年生時点の進路希望は、令和5年度～7年度進路調査結果から抜粋。

・進学・職業訓練の増加に関しては、インクルーシブ校教育実践推進校の生徒の引き上げが関係していると思われる。

3. 高校１年生から高校3年生までの進路希望　　参照：資料1－1　P7

＜令和8年度進路希望内訳＞　　＜事業種別内訳＞



	就労	進学・職業訓練	入所施設	障害福祉サービス事業所内訳								その他※3
				重度通所＊1	生活介護	自立訓練＊2	就労移行	就労A	就労B	作業所型	機能強活H	法人活H	
高１	31.5%	4.4%	0.9%	0.5%	23.8%	2.1%	4.5%	1.1%	19.9%	0.1%	0.4%	1.4%	9.3%
高２	34.5%	7.8%	0.6%	1.2%	20.7%	1.9%	5.5%	1.8%	19.8%	1.2%	0.8%	0.5%	3.6%
高３	34.0%	11.3%	0.7%	2.5%	12.8%	3.0%	5.4%	0.5%	21.6%	0.5%	1.5%	2.8%	3.4%

＊1：重度通所：重度重複通所、＊2：自立訓練：機能訓練・生活訓練　＊3：その他：在宅等

・昨年度と大きな変化はない。
・専門や大学受験の方法が多岐に渡っているため、近年、進学の希望者が増えている。
・進学、訓練校の希望が増加しているのは、インクルーシブ教育実践推進校などでの認識が広まってきていることが考えられる。

＜高１～高３居住区別人数と令和9年度新規受入人数＞

		鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	合計
高１～高３		195	120	32	86	126	144	113	201	101	120	152	126	127	128	209	76	126	99	2281
うち高３		70	36	7	30	44	47	41	71	33	45	52	43	43	39	73	22	31	29	756
令和9年度新規受入人数　＊1		174	319	254	485	99	86	216	155	164	182	254	200	154	206	196	46	323	109	3622
【内訳】	障害者支援施設	1	0	0	0	0	5	8	2	0	2	8	0	1	1	0	2	0	0	30
	生活介護	22	32	7	4	11	23	69	45	26	36	38	23	57	23	48	10	134	34	642
	訓練	2	31	75	61	0	3	3	0	22	0	21	0	0	0	0	2	0	0	220
	就労移行	27	83	73	108	0	0	9	13	9	22	41	14	4	31	39	0	5	0	478
	就労A	13	23	21	17	2	3	5	0	2	0	6	0	0	11	0	6	4	0	113
	就労B	86	84	42	263	74	37	100	78	77	110	128	133	79	107	85	10	157	53	1703
	作業所型	14	14	13	28	9	7	19	3	8	2	2	4	0	9	4	0	15	2	153
	精神作業所型	3	44	18	0	2	0	1	9	17	6	9	24	8	22	16	16	6	19	220
	機能強活H	4	2	1	1	1	4	1	2	2	2	1	0	3	0	2	0	2	1	29
	法人型活H	2	6	4	3	0	4	1	3	1	2	0	2	2	2	2	0	0	0	34

＊1：「令和9年度新規受入れ状況調査」から抜粋。【内訳】は週１名からの受入を含む。

・事業所の新規受け入れ人数は、全体数としては増加している。特に自立訓練（生活訓練）、就労継続支援、移行支援事業所の増加が多く、これは新規立ち上げによるものと思われる。B 型は制度改訂に合わせて 8 年 6 月までの立ち上げが急増してきたことの影響が考えられる。生活訓練では週 1 日から利用可としているところも多く、多様なニーズの受け皿となっている。
・一方で、強度行動障害の生徒や医療的ケアのある生徒の通所先になりうる事業所の受け入れは大きく増加しておらず、居住区外の事業所を検討することが必要なケースや希望日数通りの利用ができないケースは引き続き出てくると見られる。